



第12回 四十雀賞授賞式 受賞記念講演会

第12回受賞者

関口時正氏らによる「『ショパン全書簡』翻訳チーム」



日時：2024年10月22日（火）15:30~（17:30 終了予定）

場所：佐野書院（オンライン同時開催）

授賞式・受賞記念講演会は現地/オンライン参加のいずれの場合も
どなたでもご参加いただけます。

下記URLまたはQRコードよりお申し込みください。

※10/21(月)締切

<https://x.gd/lqknd>



（参加方法にかかわらず、お申し込みいただいた全ての方へZoomミーティングコードを
お知らせいたします。）

2024年四十雀賞選考委員会
一橋大学言語社会研究科 小岩信治研究室

E-mail koiwaseminar@gmail.com

HP <https://sites.google.com/view/shijuukara/>

授賞理由

ピアノ曲などによって知られるフリデリク・ショパン(1810–1849)の書簡は、彼自身の言葉や文章を後世に伝える貴重な資料である。ポーランド文化を専門とする文学者、翻訳家である関口時正氏らによる日本語訳『ショパン全書簡』(岩波書店)は、ポーランド～パリ時代(1810–1839)を扱った最初の3巻が刊行されており(2012、2019、2020)、残りの巻(1839–1849)とショパンをめぐる第三者の書簡も、今後の翻訳・刊行が検討されている。

2024年6月現在、『ショパン全書簡』の翻訳は日本語以外で刊行されていない。ドイツ語やフランス語が織り交ざり、言葉遊びや駄洒落を含むショパンの言葉を正確に読み解くのが困難であることが理由のひとつであろう。また、書簡のテキストを凌ぐ量の膨大な原注も特徴のひとつであり、それが大部分翻訳されたことによって読者は同時代の音楽家などに関する詳細な情報も読み取れる。

関口氏を中心とした『ショパン全書簡』の日本語への翻訳プロジェクトは、多言語・多文化理解をともなう高い翻訳能力と、膨大な作業を成し遂げる忍耐力を兼ね備えたメンバーの協働によって実現した。日本におけるショパン研究・19世紀前半を中心とした音楽文化研究への本書の貢献は計り知れない。

以上の事由により、関口時正氏らによる「『ショパン全書簡』翻訳チーム」に第12回四十雀賞を授与したい。

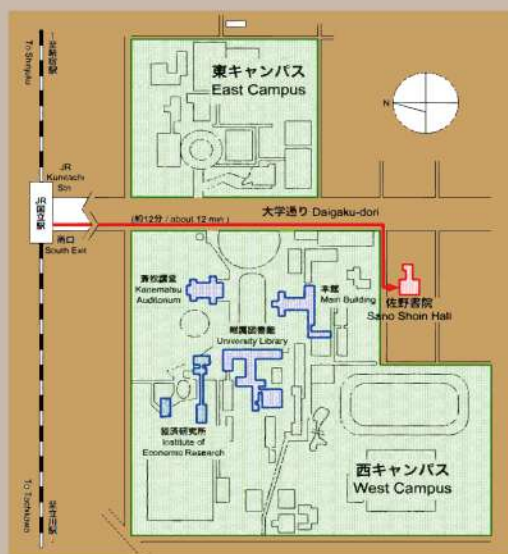
2024年7月
2024年度「四十雀賞」選考委員会

四十雀賞とは

当研究室及び学部共通ゼミに所属する学生たちで構成された「四十雀賞選考委員会」では、毎年、本邦の音楽文化に広く貢献した個人・団体を選定し、「四十雀賞」をお贈りしています。

賞の名前は、一橋大学があります国立市の鳥で、美しい鳴き声を持つ「シジュウカラ」に由来します。

アクセス



JR 中央線国立駅南口より徒歩約12分
住所：東京都国立市中2-1 国立西キャンパス内

